

NEWS RELEASE (2023年10月26日)取材依頼

藩校造士館創立 250 周年・鹿児島大学法文学部附属
「鹿児島の近現代」教育研究センター
設立 1 周年記念シンポジウム

「五代友厚と〈鹿児島の近現代〉」のお知らせ

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては大変お世話になっております。

「鹿児島の近現代」教育研究センターでは、令和 5 年 10 月 29 日（日）に、弊センター設立 1 周年並びに鹿児島大学の源流のひとつである藩校造士館創立 250 周年を記念してシンポジウムを開催します。

本シンポジウムは、旧薩摩藩出身の五代友厚が近現代の日本と鹿児島にどのような影響を及ぼしたのか、その歴史像を詳らかにします。

第 I 部「基調講演」では、八木孝昌氏（一般社団法人日本コミュニティカレッジ講師）と井上潤氏（公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館顧問）に講演を依頼しました。八木氏には、五代友厚に関する伝記的な著書が出版された経験から、五代と近代の鹿児島との関わりについてご講演いただきます。井上氏には、長らく渋沢栄一研究に携わってこられた経験から、五代と渋沢とを対比して見えるそれぞれの企業家としての「個性」についてご講演いただきます。八木・井上両氏の講演を通して、「近代」の日本における五代の歴史的位置を再考する機会を提供します。

第 II 部「トークセッション 五代友厚と〈鹿児島の近現代〉」では、メディアにおける「五代友厚」像の形成や、五代と鹿児島との関係をめぐる〈記憶〉の継承のあり方をテーマとして、鉾山経営や西南戦争との関わり、島津家に対する意識などをキーワードとして議論を行います。登壇者として、上記講演者に加え、田中光敏氏（映画監督）、寺尾美保氏（立教大学特任准教授）、下豊留佳奈氏（郷土史家）の 3 名をゲストとしてお招きし、それぞれの立場から見た五代と近現代の鹿児島について語っていただきます。

つきましては、下記の通り詳細をお知らせいたしますので、取材方よろしくお願いたします。

記

【日 時】 2023（令和 5）年 10 月 29 日（日） 13：30～16：45（開場 12：30）

【会 場】 かごしま県民交流センター大ホール（定員 250 名）

【同時配信】 YouTube ライブ

【対 象 者】 学生、一般市民

【内 容】

12：30 開場

13：30 開演

13：30～13：40 開会挨拶

13：40～13：50 センター設立 1 周年の総評（尚古集成館館長 松尾千歳氏）

13：50～14：00 企画趣旨説明（「鹿児島の近現代」教育研究センター長 丹羽謙治）

14：00～14：40 基調講演①「五代の「弘成館」鉾山業一半田銀山をめぐって」
（一般社団法人日本コミュニティカレッジ講師 八木孝昌氏）

14：40～14：50（休憩）

14：50～15：30 基調講演②「近代日本社会の創造者渋沢栄一の思想と行動～五代友厚との関

係に触れながら～」

(公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館顧問 井上潤氏)

15:30～15:40 (休憩)

15:40～16:40 トークセッション「五代友厚と〈鹿児島近代〉」

◎登壇者：八木氏、井上氏、田中光敏氏(映画監督)、寺尾美保氏(立教大学特任准教授)、下豊留佳奈氏(郷土史家)、丹羽謙治教授(「鹿児島近代」教育研究センター長、コーディネーター)

16:40～16:45 閉会挨拶、事務連絡

16:45 閉会

シンポジウム「五代友厚と〈鹿児島近代〉」要旨

本シンポジウムでは、鹿児島近代史における五代友厚の位置づけについて考えます。

これまでの鹿児島近代史において五代は、他の旧薩摩藩士に比べ十分に語られてきたとは言えません。しかしながら五代は、鹿籠金山(枕崎市)をはじめ、県内外に複数の鉱山を所有するなど、鹿児島の「近代」化に少なからぬ影響を及ぼしていたと考えられます。また、現在も県内各地に五代ゆかりの史跡が整備され、各種のイベントも催されているように、現代の鹿児島においても五代という存在は大きなものがあり、近年特にその傾向は顕著です。

以上の状況に鑑み、本シンポジウムでは多彩なゲストをお招きして、日本の「近代」化と近代の鹿児島における五代友厚の存在意義を問い直す機会を提供します。

登壇者

【八木孝昌氏】

1941年、京都府出身。岐阜県立本巣高等学校を経て、大阪市立大学経済学部卒業。博士(文学)。大阪市立大学生活協同組合専務理事、大学コンソーシアム大阪事務局長、学校法人帝塚山学院常務理事を歴任。現在、NPO法人岸和田健老大学特任講師、一般財団法人住吉村常盤会評議員、一般社団法人日本コミュニ ティカレッジ講師、帝塚山派文学学会運営委員。著書に『新・五代友厚伝-近代日本の道筋を開いた富国の使徒』(PHP 研究所、2020年)などがある。

【井上潤氏】

1959年、大阪府出身。明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻卒業。同大学卒業後、渋沢史料館学芸員に着任。以降、学芸部長、副館長を歴任した後、2004年に館長就任。2019年からは公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事を兼任し、2022年より公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事兼渋沢史料館顧問。著書に『渋沢栄一伝-道理に欠けず、正義に外れず』(ミネルヴァ 書房、2020年)などがある。

【田中光敏氏】

1958年、北海道出身。映画監督・大阪芸術大学芸術学部映像学科学科長。『化粧師 -kewaishi』で映画監督デビュー。市川海老蔵主演の『利休にたずねよ』ではモントリオール世界映画祭最優秀芸術賞、日本アカデミー賞の9部門で優秀賞を受賞。その後『海難 1890』において、日本アカデミー賞10部門で受賞。2020年公開の三浦春馬主演『天外者』では第94回キネマ旬報においてW受賞。最新作は2023年10月6日公開の『親のお金は誰のもの～法定相続人～』。

【寺尾美保氏】

1966年、鹿児島県出身。鹿児島大学卒業後、尚古集成館にて学芸員として20年間勤務。大河ドラマ特別展「天璋院篤姫展」の企画委員などを務める。専門分野は日本近代史。明治前中期の旧大名が、いかにして自己を華族として位置づけたかについて、島津家を主な事例とし、政治的・経済的・文化的側面から研究している。現在は立教大学文学部史学科（日本史学専修）特任准教授。博士（文学）（東京大学）。

【下豊留佳奈氏】

1993年、鹿児島県出身。志學館大学人間関係学部歴史地理コース卒業。志學館大学教授・原口泉氏の秘書を務め、現在はフリーで活動（オフィスいろは代表）。第一工科大学と鹿児島第一医療リハビリ専門学校の非常勤講師。共著に『鹿児島偉人カルタ 55』（燦燦舎）。鹿児島県立図書館協議会委員、南日本新聞書評委員、薩摩川内市文化財保存活用地域計画作成協議会委員、鹿児島市教育委員会ふるさと人物史編集委員会委員など務める。

以上

※シンポジウムフライヤーを別紙でつけております。

※取材を希望される際には、事前に下記担当者までご連絡ください。

※センターHP <https://kadai-kingendai.jp/>

【問い合わせ先】

鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター事務室 担当：河野（こうの）
TEL：099-285-7532 E-mail：kingendaijim@leh.kagoshima-u.ac.jp

五代友厚

〈鹿児島県の近現代〉

藩校造士館創立二五〇周年・鹿児島大学法文学部附属
「鹿児島の近現代」教育研究センター設立
一周年記念シンポジウム

日時

2023年
10月29日(日)
13:30 - 16:45

会場

かごしま
県民交流センター
大ホール(オンライン同時配信あり)

参加費 無料

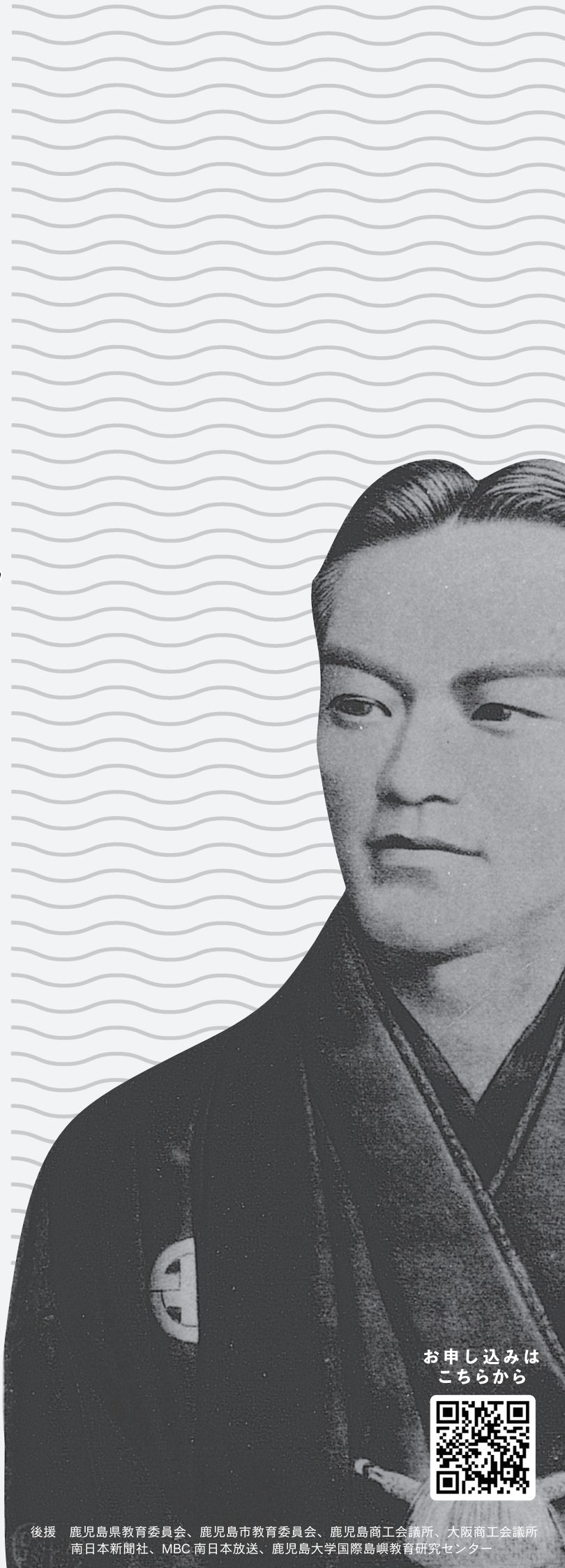
お問い合わせ先

「鹿児島の近現代」教育研究センター
TEL: 099-285-7532

お申し込みは
こちらから



後援 鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、鹿児島商工会議所、大阪商工会議所
南日本新聞社、MBC 南日本放送、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター



企画概要

本シンポジウムでは、鹿児島県の近現代史における五代友厚の位置づけについて考えます。

これまでの鹿児島県の近現代史において五代は、他の旧薩摩藩士に比べ決して十分に語られてきたとは言えません。しかしながら五代は、鹿籠金山(枕崎市)をはじめ、県内外に複数の鉱山を所有するなど、鹿児島県の「近代」化に少なからぬ影響を及ぼしていたと考えられます。また、現在も県内各地に五代ゆかりの史跡が整備され、各種のイベントも催されているように、現代の鹿児島県においても五代という存在は大きなものがあり、近年特にその傾向は顕著です。

以上の状況に鑑み、本シンポジウムでは多彩なゲストをお招きして、日本の「近代」化と近現代の鹿児島県における五代友厚の存在意義を問い直す機会を提供します。

プログラム

- 12:30 開場
- 13:30 開会挨拶
- 13:40 センター設立1周年の総評
尚古集成館館長 松尾千歳氏
- 13:50 企画趣旨説明
「鹿児島県の近現代」教育研究センター長 丹羽謙治
- 14:00 基調講演①
「五代の「弘成館」鉱山業——半田銀山をめぐる——」
一般社団法人日本コミュニティカレッジ講師
八木孝昌氏
- 14:40 休憩
- 14:50 基調講演②
「近代日本社会の創造者 渋沢栄一思想と行動
～五代友厚との関係に触れながら～」
公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館顧問
井上潤氏
- 15:30 休憩
- 15:40 トークセッション
「五代友厚と〈鹿児島県の近現代〉」
パネリスト
八木孝昌氏 / 井上潤氏 / 田中光敏氏
寺尾美保氏 / 下豊留佳奈氏
- 16:40 閉会挨拶・事務連絡
- 16:45 閉会

総合司会
伴野文亮

「鹿児島県の近現代」教育研究センター特任准教授



パネリスト紹介

コーディネーター
丹羽謙治

「鹿児島県の近現代」教育研究センター長



八木孝昌氏



1941年、京都府出身。岐阜県立本巣高等学校を経て、大阪市立大学経済学部卒業。博士(文学)。大阪市立大学生協同組合専務理事、大学コンソーシアム大阪事務局長、学校法人帝塚山学院常務理事を歴任。現在、NPO法人岸和田健老大学特任講師、一般財団法人住吉村常盤会評議員、一般社団法人日本コミュニティカレッジ講師、帝塚山派文学学会運営委員。著書に『新・五代友厚伝 - 近代日本の道筋を開いた富国の使徒』(PHP研究所、2020年)などがある。

井上潤氏



1959年、大阪府出身。明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻卒業。同大学卒業後、渋沢史料館学芸員に着任。以降、学芸部長、副館長を歴任した後、2004年に館長就任。2019年からは公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事を兼任し、2022年より公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事兼渋沢史料館顧問。著書に『渋沢栄一 - 伝一道理に欠けず、正義を外れず』(ミネルヴァ書房、2020年)など。

田中光敏氏



1958年、北海道出身。映画監督・大阪芸術大学芸術学部映像学科学科長。『化粧師 -kewaishi』で映画監督デビュー。市川海老蔵主演の『利休にたずねよ』ではモントリオール世界映画祭最優秀芸術賞、日本アカデミー賞の9部門で優秀賞を受賞。その後『海難1890』において、日本アカデミー賞10部門で受賞。2020年公開の三浦春馬主演『天外者』では第94回キネマ旬報においてW受賞。最新作は2023年10月6日公開の『親のお金は誰のもの～法定相続人～』。

寺尾美保氏



1966年、鹿児島県出身。鹿児島大学卒業後、尚古集成館にて学芸員として20年間勤務。大河ドラマ特別展「天璋院篤姫展」の企画委員などを務める。専門分野は日本近代史。明治前中期の旧大名が、いかにして自己を華族として位置づけたかについて、島津家を主な事例とし、政治的・経済的・文化的側面から研究している。現在は立教大学文学部史学科(日本史学専修)特任准教授。博士(文学)(東京大学)。

下豊留佳奈氏



1993年、鹿児島県出身。志学館大学人間関係学部歴史地理コース卒業。志学館大学教授・原口泉氏の秘書を務め、現在はフリーで活動(オフィスいるは代表)。第一工科大学と鹿児島第一医療リハビリ専門学校の非常勤講師。共著に『鹿児島偉人カルタ55』(燦燦舎)。鹿児島県立図書館協議会委員、南日本新聞書評委員、薩摩川内市文化財保存活用地域計画作成協議会委員、鹿児島市教育委員会ふるさと人物史編集委員会委員など務める。

【別紙】

藩校造士館創立 250 周年・鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター
設立 1 周年記念シンポジウム
「五代友厚と〈鹿児島の近現代〉」QR コード

※「鹿児島の近現代」教育研究センター、シンポジウムお知らせ記事の QR コード



以上